

「 信玄の信濃攻略 」

2010-9-27 遠藤俊一

ここが海津城か、それなら妻女山（さいじょさん）はどちらの方角だ。
永禄4年（1561）8月、今から449年前になる。武田信玄はこの海津城に入り、妻女山の上杉謙信陣を眺めたに違いない。

「すみません、妻女山ってどちらの方ですか」、城址の清掃をしていたおじさんに聞く。

「向こうの稜線の右端の低いあたりですよ」、人懐っこい顔で答えてくれた。
城跡には木製の階段を上がったところにやはり木製のテラスのような展望所がある。

「あそこが妻女山だな、謙信はあそこか」

「よしっ、明日は妻女山に行くぞ、川中島の戦場に行くぞ」



2010年8月23日、今は海津城という名ではなく、江戸時代に真田氏の居城となった松代城址を後にして、リュックサックを背負い、流れる汗と戦いながら、25分ほどの道を歩いて宿舎の信州松代ロイヤルホテルに着いた。

今年の夏休み一人旅はどこへ行こう、だいぶ前から考えていた。
昨年の「秀吉の中国攻め」で懸案の城めぐりもほぼ終わってきたな。
これから何をテーマに旅しようかと考えた。
もちろん、行っていない城はまだあるけど、しかし、山は越えたなと思った。
そこで、考えた。はたと思い当たった。
昔の武将は戦いを何のためにやったのだろう。
領地を拡大して、経済的にも潤うためだ。そのために領地の核となる城取りが当面の最終目的になる。だから、名だたる戦場としての城が歴史に数多く残っている。
が、城方の武将からいうと、城まで来られたら劣勢ということになる、町も焼かれて勝ったとしても復興に力をそがれる。そうならないように城を出て敵を迎え撃つ。野戦である。
そうだ、城の次は歴史に出てくる戦場めぐりがいい。

戦場で有名なのはどこだろう。

すぐに「関が原」が出てくる。もう行ったな。

あとは、どこだ。

決まっている。すぐに出てきたのは「川中島」だ。

3つ目は。出てこない。

いや、出てくるが、1つだけでなく同じくらいのが沢山出てくる。

東北では「摺上原（すりあげはら）」伊達と芦名が戦った。

関東では、城攻めは結構あるが、戦場としては「三増峠（みますとうげ）」、武田と北条か。

東海は「三方が原」、武田と徳川だ。「桶狭間」もあるな、織田と今川だ。

北信越は源平の頃の「倶利伽羅峠」か「手取川合戦」織田と上杉だ。

近畿は「山崎の戦」羽柴と明智。いや、「賤ヶ岳（しずがたけ）」で羽柴と柴田か。

中国では「嚴島」、毛利と陶。

九州は「沖田畷」で龍造寺と島津か。「耳川の戦い」で島津と大友か。

こうしてみると3つ目ははっきりしない。各地で名乗ればいいのだろう。

「関が原」と「川中島」こそメジャー中のメジャーなのだろうな。そのメジャーな「川中島」に行っていないことに気がついた。今年の目的地は川中島にしようと思った。

川中島はちょっと遠い。その途中で城めぐりをするか。途中となると、山梨県、長野県になるな。そしたらかって武田信玄が甲斐から信濃を攻略していった道筋になる。

かくて、今年の夏の一人旅、テーマは「信玄の信濃攻略」となった。去年の「秀吉の中国攻め」を意識したのは言うまでもない。

日程を決める。8月21日（土）～24（火）の3泊4日とした。

コースはどうしよう。信玄が進んだ川中島のある信州・善光寺平への道は2つある。現在で言うと、甲府を発って小淵沢から小海線で行く経路と小淵沢の先の諏訪から松本を経て行く経路だ。

信玄は小海線の海ノ口城で平賀源信を初陣戦で破り北上し、一旦は敗れる。

次に諏訪氏を破り松本の小笠原氏を破った。

そしてまた小海線沿いを北上、村上氏の葛尾城（今の上田近郊）を落とす。

そして川中島の戦いだ。小笠原氏、村上氏の乞いを受け入れた正義の味方、上杉謙信の登場となる。信玄・謙信、宿命の対決だ。

小海線沿いは仕事の関係でよく行っているし小諸城、上田城はすでに終わっている。

よし、決めた、諏訪から松本、そして川中島だ。

城は諏訪氏の上原城、桑原城。小笠原氏の林城。川中島の海津城だ。

までよ、もう一つやりたいな。

「信玄の信濃攻略」といったら「棒道」だ。ぜひ「棒道」を歩きたい。

「棒道」は信濃攻略を目指した信玄が、甲斐から諏訪郡を経て信濃へ至る最短経路として整備したと伝えられる道だ。八ヶ岳の麓を棒のようにほぼ真っ直ぐに抜けていたことからこう呼ばれたという。戦に向かうためのいわば高速道路として、また物資輸送路として使われたという。諏訪に行く前にこの棒道を行軍して、信玄軍の気持ちを味わおうではないか。かくて、コースも決まった。

8月21日 八王子9:09発のあずさ7号に乗る。途中「山梨市」で普通列車に乗り換え「日野春」で降りる。

ここには信濃攻略の拠点とした「若神子城（わかみこじょう）」がある。武田軍の情報伝達手段であった「狼煙（のろし）通信網」の拠点でもあったらしい。その復元狼煙台があるという。

駅前に待機していた2台のタクシーに声をかける。

「ふるさと公園内の若神子城此に行って」

「えっ、どこですか」

なんと、地元のタクシーでもよくわからないらしい。

それでも一度だけ道を間違えただけで到着。高台の公園内に若神子城の看板と狼煙台があった。どんなにして狼煙をあげたのかなと思いつつ後にする。馬なら10時間かかるところを、この狼煙通信網なら2時間で連絡できたというから優れものだったのだろう。



待たせておいた車で甲斐小泉の「三分一湧水（さんぶいちゆうすい）」までゆく。

泉のあちこちから湧き出す水が、分水柵によって3方向に分けられている。環境省選定の「名水百選」にも選ばれているものだ。適当に見て近くのローソンでお弁当を買う。棒道を歩いて、途中で昼食にするつもりだ。

いよいよ棒道行軍の始まりだ。

お地蔵様を見ながら歩き出すとすぐに別荘地帯に入った。軍隊と別荘ではなんとも雰囲気が出ない。ハイキングみたいだ。もっとも、これは散策路「信玄棒道コース」として整備されているので当たり前かもしれない。自分だけの瞑想の世界を歩くしかないか。

ここを抜けると静かな森の中に棒道らしい道になった。馬糞があったが、乗馬クラブではない、信玄軍の軍馬だと自分に言い聞かせた。タオルで時々汗を拭いたが草木が涼を呼んだのか思ったよりは暑くはなかった。左下にゴルフ場を見るようになって、ちょっと遅いお昼を使った。火の見やぐらのある十字路を左折して小淵沢駅に向かう。小海線を抜けたところの「フィオ・レ小淵沢」によった。昆虫美術館とあったが庭の花だけを見て駅に向かう。8・4キロのコースで約3時間とあったが2時間ちょっと位だったろうか。

武田軍はこの棒道を通して諏訪征伐に向かうことになる。

小淵沢から中央本線で上諏訪まで行く。

駅前の上諏訪ステーションホテルにチェックインする。

小休止して食事に出かける。諏訪湖のほとりだからうなぎでも食べるか。

その前に水城の高島城の夜景でも見てからにするか。

途中でしっかりと小粋な鰻屋さんの所在を確かめた。

ライトアップされた高島城をチラッとだけ見てUターン。鰻屋へ急げ。

鰻屋の1階は満員、2階に案内される。他にお客は誰もいない。しばらくして二人づれの中年男が入ってきたがそれだけ。なんとも味気ない夕食だった。

翌朝、諏訪氏滅亡の上原城、桑原城に行く前にもう一度高島城に行く。

途中で変なおじさんが近づいてきた。高島城に行くなら一緒に行こうと言う。

この地の方で商売をしていたがうまく行かず今は息子に譲って隠居だそうだ。

息子が頼りないとか、諏訪の町も寂しくなって今は隣の茅野市のほうが栄えている。

地価が新耕地だけあって茅野の方が安いから人が集まるとか、あまり元気でない。

それでも、隠居同士が私が気に入ったらしい。時間が有るかと聞くので、急ぐ旅ではないと答えた。それならと天守閣のそばのベンチに座って小一時間ほど話し込んだ。これだから旅は楽しい。優秀な息子に後を託したという私を羨ましがり、お互いがんばろうと握手をして別れた。



電車で隣の「茅野」まで行く。

駅前のタクシーに「上原城、桑原城、茶臼山城に行ってくれ」と頼む。

みごと、断られる。茶臼山城が問題だったらしい。

昨日、上諏訪の駅で観光案内のパンフレットを見た。今の高島城は近世の城で、武田氏が諏訪氏を滅ぼして諏訪に進出した時の高島城は近くの別の場所で別名茶臼山城ともいった。その茶臼山城がわからないから行けないとの事だった。別のタクシー運ちゃんも同じ事を言う。しょうがない、どうしよう。もう、ここでは頼めない。

橋を渡って、向こうの正面口に行く。

タクシー運ちゃんに同じく頼んだ。わからないと言って別の運ちゃんに聞いていた。

ようやく乗せてくれた。向こうでは断られたというときしからんといって憤慨していた。

良識のある運ちゃんもいるもんだ。

上原城址に行く。諏訪氏の本城だったところだ。

車で登ってゆくと大きな看板が見えた。そこで車をおり山道を少し登ると社のようなところに着く。もう、上原城址だ。信玄が押し寄せてくると諏訪頼重はすぐにこの城を捨てて桑原城に兵を終結させた。ここでは逃げ道がないからかな～。



上原城址



桑原城址

つづいて桑原城に行く。駐車場らしきところにとめて山道を登る。運ちゃんも一緒に行くという。2～30分くらい登ると桑原城址本丸跡に着いた。上原城ともあまり変わらない山城だ。尾根伝いに向こうに逃げられそうだ。だからこちらに来たのかな～。

いずれにしろ、諏訪頼重は戦らしい戦もせず信玄に降り捕虜となる。結局だまされ切腹することになる。

タクシーは問題の茶臼山城に向かう。これが難物だった。上諏訪に戻ってきたが、よくわからない。近くの工場の人に聞いたが良くわからない。それでも近くまでは来れた。

ようやく着いたところは普通の住宅地だった。そこに住んでいる人も良くわからない。住宅の生垣にちょこっと立っていた案内板“高嶋城（茶臼山城）跡”と50メートルほど先の角にたっていた小さな石碑“史跡高嶋城”が我々の目的地だと教えてくれた。



諏訪を手に入れた信玄はこれから守護大名だった小笠原氏を攻めることになる。小笠原氏の本拠、林城は松本にある。

上諏訪の駅から松本に向かう。すぐに着いた。駅から歩いて1分「ホテルニューステーション」にチェックインする。松本城は近世の城だ。今回の私のお目当ては戦国時代だ。どうでもいい。まあ、でも、ちょっとだけ見て行くか。



ホテルから2～30分歩いて到着。人がずいぶんいて行列だ。天守閣を登る階段も数珠繋ぎだった。荒っぽく見て「本命じゃないのだからこんなところで、まあ、いいか」

夕食は松本の夜の街に出る。にぎやかで他の県庁所在地の夜の街となんら変わらない。結局、何のことはない、鰻屋にしてしまった。2階に通されると老夫婦一組。昨日と変わることがなく味気ない夕食でした。

3日目の朝になった。

駅まで歩いてタクシーに乗る。

「小笠原氏の林城に行って」

またわからないという。私が行くところはそんなにマイナーなんですか。

駅の案内所でもらった地図を見せるとわかったという。

近くまで進んだ。まだ20分くらいしか走っていない。こんなに近いところでもわからないのか。

地図にある林城めぐりのハイキングコースの出口がわからない。私が出口から歩きたいと
いったからだ。近くを歩いていた婦人に聞いている。ようやくわかったらしい。また走り
出した。停まった。悩んでいる。もういい、入り口のところに戻って。

車を降りて、いざ、林城へ！

林城は信濃の守護大名・小笠原氏の本城だった。

林・大城と林・小城が谷を挟んで向かい合っている。両城で互いに補完し合って敵に備え
ている。ハイキングコースの入り口は大城への登り道になっている。

急な小道を登った。汗が出てくるが思ったほど熱くはない。木々のこずえや葉が和らげて
くれているようだ。まもなく尾根道のような小道を行くと林・大城の本丸跡に出た。40
分くらいの道のりだった。初めの坂は急だったが時間的にそんなもんだ。本丸はいかにも
戦国時代の山城のものでさほど広くはない。「長野県史跡小笠原氏城跡」の看板があるだけ
で殺風景なもんだ。近くに東屋のような小屋があり小休止。向こう側の下山道を下る。都
合1時間くらいで出口に出る。なんのことはない、先ほど探した道の一つ奥の所だった。

しばらく舗装道を歩く。汗は出てくる、足に少々重みを感じてきた。「林・小城登り口」
の看板が立っていた。一山登って降りてきたばかりだ。もう一度登るには決心がいる。
無理やり元気を出して、また登城の道に行く。昔の侍が「登城」といった意味がわかる。



林・大城址



林・小城址

「小笠原氏城跡（林小城跡）」の看板でそこが目的地だと知る。そうでなければただのハイキングになってしまう。それでも目をつぶると信玄の攻勢で滅亡寸前の名門大名小笠原一族の切なさも感じる。結局、小笠原長時は信濃を捨て、越後の上杉謙信を頼って逃げ延びることになる。

1時間ほどの上り下りだった。村の公民館のようなところでタクシーを呼ぶ。15分ほど待って松本駅に戻る。

駅前で信州そばを食べてからJRに乗る。松本から14:04発「しなの11号」、40分で「篠ノ井」に着く。しなの鉄道に乗り換え「屋代」、長野電鉄に乗り換え「松代」へ、15:35に到着。ローカル線の旅も楽しいものだ。

あの真田幸村の兄の真田信之が関が原の戦いのあと、徳川幕府に転封され明治時代まで続いた真田藩の居城「松代城」がある。駅の案内板にもある。でも、信玄の時代、川中島決戦の時に築いた城は「海津城」だ。「松代城」、「海津城」どうなっているんだろう。ともかく「松代城」に向かって歩いた。

松代城の石碑を見、門をくぐり中に入る。うん、ここが城跡だな。清掃のおじさん、おばさんたちが小休止していた。その向うに古びているが大きな石碑が見えた。

あった、あった。「海津城」の文字。これで現在の松代城址がその昔の海津城址だということになる。ようやく信玄、謙信の時代にタイムスリップだ。

「すみません、妻女山ってどちらの方ですか」と聞いた。



松代城



海津城址石碑

翌朝、ホテルの玄関からタクシーに乗った。

前日、ホテルに到着したときに聞いておいた。妻女山にはレンタサイクルかタクシーか。フロントの返事があいまいだったので面倒なくタクシーにした。

「運転手さん、妻女山から雨宮の渡しを經由して八幡原の決戦場へ」

ところが、運転手が言う。

「お客さん、ちょっと回り道して“松代象山地下壕”に行きませんか」

「えっ、そこはどんなところなの」

「戦時中の大本営地下壕ですよ、天皇も非難所にする予定だったところですよ」

「行く、行く。そこ行って」

地下壕は夏なのにひんやりしていた。ここはその一部だけで松代地下壕は舞鶴山を中心に皆神山、象山の3ヶ所に碁盤の目のように掘りぬかれ、その延長は10キロメートル余に及んでいる。今は気象庁精密地震観測室になっているが世が世なら本土決戦最後の拠点として大本営、政府各省を東京より移し、天皇、皇后も住まわれるはずだった。終戦のその日まで人海作戦で構築していたというすごいものだ。結局使うこともなく終戦になったので今日の日、今日の私があるといえなくもない。

「それじゃ運転手さん、妻女山から雨宮の渡しを經由して八幡原の決戦場へ」

妻女山は山というより上り山道の途中という感じだった。

看板に「妻女山謙信陣」とあった。展望台から八幡原を見た。

正確にはわからないが、まあ、あっちの方角で間違いないだろう。



この陣地を、信玄は山本勘助の進言の“きつつき戦法”をとり、高坂弾正昌信率いる別働隊に襲わせた。謙信はそれを察知してひそかに山を降りた。とあるがどうもこの陣地が大軍を露営させておく場所のようには見えない。やっぱり、専門のガイドに説明してもらわないとよくわからないな。まあいい、ともかく謙信は山を降りたんだ。「運転手さん、次、雨宮の渡しね」

頼山陽の有名な漢詩がある。「鞭声肅々(べんせいしゆくしゆく)～、夜、河を～渡る～」詩吟が聞こえてくるようだ。「雨宮の渡し」にはここに川があり人馬が渡っていったという雰囲気はない。が、石碑と案内板の前で目をつぶり、あの詩を唸っていると、それみるタイムスリップが出来たじゃないか。



「八幡原」に向かう。待ち伏せするつもりだった信玄が霧の晴れた向うに謙信軍を見てぎょっとした場所だ。前半戦、謙信は押しに押し。信玄は弟の武田信繁はじめ有力武将を討たれ、山本勘助も戦死する。あわやというときに別働隊が妻女山から取って返してくる。間に合った。今度は信玄軍が追撃する。謙信は越後に退却する。

戦死者の数は謙信軍のほうが多いが、有力武将の戦死は信玄軍が多い。ゆえに引き分けだったというのが後世の判定だ。しかし戦後この地を統治したのは信玄だったので・・・、まあ、引き分けでいいじゃないか。

信玄、謙信一騎打ちの銅像が立っていた。この地に来たぞとの記念写真をとる。



なんといっても「川中島の戦い」の地に来たんだ。海津城だって行ったんだ。妻女山もだよ。雨宮の渡りで鞭声粛々を唸ったんだ。そしてここが八幡原だ。う～ん、いい気持ち。

バスで長野まで出た。駅前でラーメンを食べ、上越新幹線で帰京する。担いだリュックには着替えや洗面用具だけでなく思い出と満足感がいっぱい入っていました。

さて、来年はどこへ行こうか、何をテーマにしようか。